

Unique &
Exciting

キャリア編

藤崎 正範

2000年電子工学科 (E) 入学
株式会社ハートビーツ 代表取締役

ITベンチャーの立ち上げから 電気通信大学発ベンチャー 認定に至るまで



私のキャリア

高校3年までは普通に過ごしましたが、医学部を目指し3年間浪人しました。2000年、21歳で進路を変更し、電通大の夜間主コースに入学。学費や生活費を賄うため、ITベンチャーでアルバイトを始めました。最初の会社でサーバー運用を経験し、次の会社ではサーバー運用を代行するMSP事業の立ち上げに携わりました。その後、企業と直接契約する機会を得て、2003年、24歳で個人事業主として独立。2005年、26歳で株式会社ハートビーツを創業し、代表取締役に就任。MSP事業を本格展開し、事業を拡大させました。2008年に大学へ復学し、2010年卒業。その後、グローバル経営大学院でMBAを取得し、2024年で経営者として20年目です。

セレンディピティとの出会い

私は、どんな状況でもできるだけ前向きに向き合うよう心がけていますが、もちろん失敗して落ち込む日もあります。特に浪人時代は鬱屈した時期でした。そんな中、外山滋比古著『思考の整理学』を読んで「セレンディピティ」という言葉に出会いました。この言葉は「予想外の結果だが、偶然にも良い結果を得る幸運や能力」ということを指します。逆説的にいえば「行動しなければ偶然の良い結果も得られない」ということです。この考えを通じて、私は「チャンスがあれば、まず挑戦してみる」というスタンスを持つようになりました。この言葉との出会いは、浪人時代の鬱屈した私を救った

偶然の発見でもありました。

自分をスロースターターだと思う

若い頃、周り比べて自分はかなり遅れていると感じていました。羨ましく思うこともありましたが、そんなとき自分を「スロースターター」と思うことで、心を落ち着けていた部分があります。ただ、スロースターターであれば、後半に調子が上がらなければなりません。だからこそ「頑張らなければ」という思いが常にありました。何かに取り組むときは「自分が関わったからには必ず成功させる」ぐらいの気持ちで臨んでいました。アルバイトやサークルはもちろん、仕事でも遊びでも同じです。この姿勢で取り組んだから、色んなことが良い方向に進んだと思います。更に、運も重なって、26歳で起業するチャンスを得られたのだと思っています。

大学を卒業するかどうか

会社を始めて3年で、売上が1億円を超え、ようやく安定してきました。最初は大変でしたが、仕組みが整い始め、復学の可能性が出てきました。休学を活用しながらギリギリまで引き伸ばしていたものの、周囲からは「退学して仕事に専念してもいいのでは？」と言われることも増えてきました。ただ、実績も後ろ盾もない状態でスタートしたため採用には苦労し、学生アルバイトさん達に支えられていました。だからこそ、彼らには「仕事も勉強も頑張してほしい」と伝え、学生生活も悔いなく送ってほしいと考えていました。そんな中、私が大学を辞め

てしまったら「俺は辞めたけど、君たちは頑張れ！」と言うことになり説得力がありません。当然、信用も落ちるでしょう。そのため、卒業にこだわらなければなりません。また、入学金や上京のお金を工面してくれた母の気持ちに応えたかったというのも、卒業を諦めたくなかった理由の一つでもあります。

電気通信大学発ベンチャーに認定してもらおう

大学に復学した際に、うちのメンバーから「ベンチャービジネス概論」が面白かったですよ、と教えてもらい、自分も受講することになりました。勢いでベンチャーをやってきたけれども、ビジネスについて勉強したことが殆どなかったからです。その授業がきっかけで「電気通信大学発ベンチャー」に認定していただくことになりました。その後、色んな人に協力してもらいながら、なんとか卒業しました。おかげで、様々なところで電通大の先輩方に学ばせていただいたり、お仕事をいただいたりしながら、今に至ります。

電気通信大学企業家懇話会 EATEC に参加する

卒業してしばらくした頃、とある先輩ご紹介いただき電気通信大学企業家懇話会（EATEC）に参加するようになりました。OBの中でも大なり小なり起業している方（企業内で一定の決裁権を持っているのも可）の集まりで、それぞれの経営哲学があり、年齢関係なく様々な課題をディスカッションできたり、

一緒に事業をしようと思ったり、など交流する場となっています。私も最初は一参加者として参加していましたが、コロナ時期に理事に推薦いただき、2024年8月31日をもって会長職を預からせていただくことになりました。私の好きな言葉に「集団出世主義」というものがあります。電通大の仲間と互いに助け合っていけば、今までにない成果をあげていけるはず。私はEATECをそのような場にしていきたいと考えています。

母校に恩返しをしていきたい

このような偶然な流れもあり、ありがたいことに今でも電通大に関わる機会をいただいています。このチャンスを活かして母校に恩返しをしていきたい、と思っています。いま私ができることは2つ。1つ目は、ハートビーツを「電気通信大学発ベンチャー」として大きくしていくこと。サーバー運用に加え、AWSの代理店も始めたことで成長率を大幅に高め、大学発ベンチャー1位として更に成長させていきます。2つ目は、EATEC会長としてEATECを盛り上げていくこと。他大学ではファンドなどもあり、起業家が互いに情報交換をして成功率を高める活動をしています。電通大にももちろんそういう機能はありますが、OB会として後輩をもっと多角的に支援していく仕組み作りができれば最高だと思っていますので、ぜひEATECにご参加ください。

後輩へのメッセージ

どんな状況下であれ、日本に生まれ育ったのだとしたら国ガチャでSSRを引いたようなもの。あとは自分がどうしていくのかを決めて行動するだけ。行動していれば、必ず何かが起こります。チャンスが出てきたときに逃さないよう瞬発力をもってチャレンジしていけば、きっと道をひらくことができると思います。皆さんの挑戦を応援しています。



2024年8月31日 電気通信大学企業家懇話会（EATEC）の例会での集合写真（前列中央が筆者）